学校法人兵庫医科大学

兵庫医科大学　兵庫医療大学

広報 第192号　平成 20 年 3 月

建学の精神　・社会の福祉への奉仕　・人間への深い愛　・人間への幅の広い科学的理解

神戸ポートアイランドキャンパス 4 大学連携協定を締結
左から兵庫医療大学 松田学長、神戸女子大学 波田学長、
神戸夙川学院大学 渡瀬学長、神戸学院大学 岡田学長

第21回神戸景観・ポイント賞（特別賞）を受賞
（写真：神戸市提供）

〈〈〈〈　目　　次　〉〉〉〉

特　　集

神戸ポートアイランドキャンパス 4 大学連携協定を締結…… 1
第21回神戸景観・ポイント賞（特別賞）を受賞…… 1

TOPICS

兵庫医科大学…… 2
兵庫医科大学病院……36
兵庫医療大学…… 8
法人…… 9
主要会議とその議題……11

お知らせ

兵庫医療大学のための募金 状況報告 ……13

・N・E・W・S・

神戸ポートアイランド4大学連携協定を締結

神戸ポートアイランド内にキャンパスを設置する神戸学院大学、神戸夙川学院大学、神戸女子大学(同短期大学含む)と兵庫医療大学の4大学は、大学間の教育・学術に関する連携協力並びに地域交流に貢献するために、「神戸ポートアイランドキャンパス4大学連携協定」を締結しました。締結にあたり、4大学の学長による調印式が、1月29日（火）神戸学院大学キャンパス内にて執り行われました。

松田学長は、調印式で「兵庫医療大学は次世代の医療人を養成するというミッションのなかで、薬学、看護学、リハビリテーション学の3学部をボーダレスに結び教育している。この『ボーダレス』というキーワードが、4大学の連携の際にもあてはまると思う。単位互換という制度的なことだけでなく、ボランティア活動も含めて学生たちが大学の壁を越えて自由に交流し合うことができれば、地域も活性化し、4大学全体が一層発展していくのではないか。」とコメントしました。

4大学間の連携については、昨年の開学時から様々な観点で協議を重ねてきましたが、これより正式に「神戸ポートアイランド4大学連携実務者会議」の下、入試広報、図書館、学生、教務、エクステンションの5部会を置き、具体的連携施策の実施に向け取り組んでいくことになります。

左から兵庫医療大学 松田学長､神戸女子大学 波田学長

第21回神戸景観・ポイント賞（特別賞）を受賞

昨年4月に神戸ポートアイランドに開学した神戸学院大学、兵庫医療大学、神戸夙川学院大学の3大学が、第21回神戸景観・ポイント賞（特別賞）を受賞しました。これは、神戸市が「神戸らしい優れた都市景観の形成に寄与した行為を表彰することにより、市民および事業者の景観に対する理解と意識の向上を図ること」を目的としたものです。今年2月4日（月)､「景観まちづくりシンポジウム」において表彰式が行われ、矢田神戸市長より表彰されました。受賞理由は下記のとおりです。

～神戸の新たなウォーターフロント景観の創出～

ポートアイランドコンテナバース跡地に、3つの大学が進出し、それぞれの建物が個性を出しながら、全体として1つのキャンパスを創り出している。敷地の周囲に柵や堀などを設けず、地域に開かれた緑豊かなオープンスペースも形成している。また、ポーアイしおさい公園と一体となって、みなと神戸の新しい都市的スケールの景観を創出している。

（施設整備課）

矢田神戸市長（左）から表彰状を受け取る新家理事長（右）

・兵庫医科大学TOPICS・

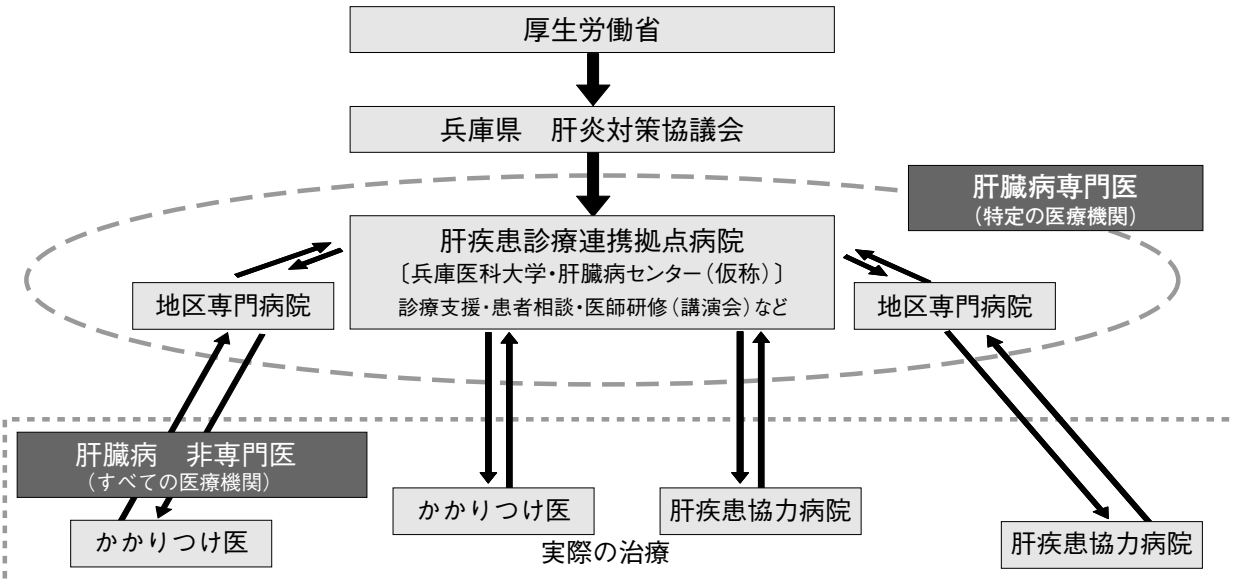
肝疾患診療連携拠点病院としての兵庫医科大学の取り組み

内科学 肝・胆・膵科　　教授　西口 修平

平成20年１月11日に薬害肝炎救済法が成立し、国は血液製剤によるC型肝炎感染にこれまで有効な手段を講じなかったことを謝罪し、従来行っていた肝炎対策をさらに強化することを決めました。具体策について詳細は不明ですが、C型肝炎の患者さんにとっては公的な治療助成金を受けることが可能となり、少なくとも金銭面ではIFN治療のハードルが下がるだろうと予測されます。さらに、厚生労働省は肝炎対策の一環として、肝疾患診療連携拠点病院（以下肝炎拠点病院）を各都道府県に原則１箇所認定し、全国の肝炎治療のレベルの向上を求めています。兵庫県では、肝臓病治療における本学の伝統と医療レベルの高さを国や県からご評価いただき、本学が選定されました。このことは我々にとっては誠に栄誉なことですが、同時に大きな責任も課せられています。

肝炎拠点病院としての本学の役割は、①県内の各医療圏に肝臓病専門病院を選定し、これらの病院とともに兵庫県に肝炎の診療連携ネットワークを構築すること、②院内に肝臓病患者相談支援センターを設立すること、③本学において県下の肝疾患医療従事者に対する研修を行うこと、などが義務づけられています〔下図〕。さらに、兵庫県からは特に県中部から北部地区には肝臓病を専門とする医療機関が存在せず、この地区の病院との連携強化や医療支援が求められています。本学は、幸いなことに内科・外科・放射線科を中心に多数の肝臓病専門医（肝臓学会専門医）を擁しておりますので、当該医局間の診療連携を強化すれば国や県からのニーズに対応可能です。これを具現化するために、肝疾患に関する最高水準の医療を提供することを目指した「肝臓病センター〔仮称〕」を本学に新設することが決まりました。

兵庫県における肝疾患の診療連携と拠点病院の役割



肝臓病センターの構想は、まだ具体案が決定されていません。理想的には、外来部門、病棟部門、検査部門、患者相談支援部門、教育部門に分かれるべきであり、その運営は、主に肝胆膵科、外科、および放射線科に所属する肝臓専門医が本センターに兼務することにより、合同で運営を行う予定です。さらに、臨床検査学、臨床病理、病理学、ICU、救命救急センター、内視鏡センター、超音波センターのご支援を頂き、拠点病院に求められる業務に幅広く対応いたします。このことにより、肝疾患の診断と治療に関し各科の垣根を取り払った集学的で質の高い医療の提供や肝臓病の教育プログラムの充実が可能となります。このような肝臓病に対する総合的な取り組みは他の医療機関や大学では例を見ず、本センターの開設は現在大きな社会問題であるウイルス性肝炎に対する本学の真摯な姿勢をアピールし、大学病院の理念でもある地域社会への貢献につながると考えております。

今後、新設される肝臓病センターの活動を通じて肝炎拠点病院としての責任を果たしたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

「がんプロフェッショナル養成プラン」第1回　兵庫エリア地域連携推進委員会」

文部科学省第3次がん10ヵ年総合戦略の一環として実施される、平成19年度大学改革推進等補助金「がんプロフェッショナル養成プラン」に近畿の国・公・私立6大学（神戸大学、兵庫医科大学、神戸市看護大学、近畿大学、大阪市立大学、大阪府立大学）が連携して共同申請し採択されました。これは同6大学の医学・看護学・薬学系大学院研究科が共通プログラム（単位互換）により質の高い医師、コメディカルのオンコロジーチームを養成するものであり、題して「6大学連携オンコロジーチーム」と称されています。

このプロジェクトを実施するためには、近畿4府県のがん診療連携拠点病院をはじめ、各阪神間の医師会の先生方の連携並びに協力なくしては不可能であることから、このたび兵庫エリアのがん診療連携拠点病院の先生方、並びに阪神間の医師会の先生方が一同に会して、「第1回

兵庫エリア地域連携推進委員会」を平成19年12月20日㈭午後7時から、神戸ポートピアホテルにて開催しました。

当日は、阪神間の各医師会長をはじめ、関連病院・一般病院の先生方を含め総勢52名の参加があり、今回のプロジェクトに対する各先生方の関心の高さを改めて実感しました。　（学務課）

「兵庫医科大学　第3回　知の創造レクチャー」

本学では平成17年に創設しました「兵庫医科大学レクチャーシップ」により、知の創造者ともいえる学外からの超一流の研究者をお招きし、最新の医学研究の講演を直接、生で聞くことで、本学教職員、研究者、大学院生、学部学生、並びに近隣の医学関係者の今後の学問研究の一助としております。今年も、1月24日㈭午後5時30分から平成記念会館に於きまして「兵庫医科大学第3回　知の創造レクチャー」を開催しました。

今回は、大阪バイオサイエンス研究所長の中西 重忠先生をお招きし、「神経伝達の制御機構」の題目で、ご講演いただきました。

当日は、学部学生343名、大学院生16名、教職員77名、総勢436名の参加があり、学生はもちろん、教員、研究者にとって今後の学問研究の大きな一助になりました。

本講演会については、次年度以降も引き続き開催していく予定です。　（学務課）

実験動物慰霊祭

動物実験委員会委員長　関　眞

平成19年12月7日（金曜日）午後5時より9－2講義室において実験動物慰霊祭が挙行されました。多数の教職員、大学院生、研究生等が参列され厳粛な雰囲気の中、参加者全員の黙祷の後、生化学講座藤原講師による慰霊の詞が捧げられました。

次に実験動物の御霊に対し学長、理事長、動物実験委員長、動物実験施設長、実験動物管理者、学務部長に続いて参加者全員が順次献花し、動物の御霊が安らかならんことを祈りました。

この実験動物慰霊祭は、兵庫医科大学の教育・研究のためにその尊い命を捧げてくださった数多くの実験動物の御霊に対し感謝の意を表すため毎年12月に挙行されております。今回で35回目となりますが、私たちは、生きる物の命を糧にしなければ成し得ない実験や研究を行っているという事実をあらためて受け止め、Refinement, Replacement, Reductionの3Rに配慮するとともに医学の発展のために努力することを誓う機会と考えております。

兵庫医科大学大学院学則の一部改正

別表　　（下線部分が改正箇所）

現行

専攻	研究分野	必修科目 授業科目	単位数	選択科目 授業科目
医科学	高次神経制御系	（省略）		（省略）
		神経生理学	講義 8 演習 6 実験研究 16 共通コース 2 特別講義 2	神経生理学 講義 演習 実験研究
		（省略）		（省略）
	生体応答制御系	環境生理学	講義 8 演習 6 実験研究 16 共通コース 2 特別講義 2	環境生理学 講義 演習 実験研究
		（省略）		（省略）
		形態・機能病理学	講義 8 演習 6 実験研究 16 共通コース 2 特別講義 2	形態・機能病理学 講義 演習 実験研究
		病態解析学	講義 8 演習 6 実験研究 16 共通コース 2 特別講義 2	病態解析学 講義 演習 実験研究
		（省略）		（省略）
		胸部腫瘍学	講義 8 演習 6 実験研究 16 （臨床研究） 共通コース 2 特別講義 2	胸部腫瘍学 講義 演習 実験研究（臨床研究）
		分子病態学	講義 8 演習 6 実験研究 16 共通コース 2 特別講義 2	分子病態学 講義 演習 実験研究
		（省略）		（省略）
先端医療学	分子病態制御系	（省略）		（省略）
		形態・機能病理学	講義 8 演習 6 実験研究 16 共通コース 2 特別講義 2	形態・機能病理学 講義 演習 実験研究
		（省略）		（省略）

改正後

専攻	研究分野	必修科目 授業科目	単位数	選択科目 授業科目
医科学	高次神経制御系	（現行どおりのため省略）		（現行どおりのため省略）
		生体情報学	講義 8 演習 6 実験研究 16 共通コース 2 特別講義 2	生体情報学 講義 演習 実験研究
		（現行どおりのため省略）		（現行どおりのため省略）
	生体応答制御系	生体機能学	講義 8 演習 6 実験研究 16 共通コース 2 特別講義 2	生体機能学 講義 演習 実験研究
		（現行どおりのため省略）		（現行どおりのため省略）
		機能病理学	講義 8 演習 6 実験研究 16 共通コース 2 特別講義 2	機能病理学 講義 演習 実験研究
		分子病理学	講義 8 演習 6 実験研究 16 共通コース 2 特別講義 2	分子病理学 講義 演習 実験研究
		（現行どおりのため省略）		（現行どおりのため省略）
		（現行どおりのため省略）		（現行どおりのため省略）
		放射線腫瘍学	講義 8 演習 6 実験研究 16 （臨床研究） 共通コース 2 特別講義 2	放射線腫瘍学 講義 演習 実験研究（臨床研究）
		医学物理学	講義 8 演習 6 実験研究 16 （臨床研究） 共通コース 2 特別講義 2	医学物理学 講義 演習 実験研究（臨床研究）
		臨床腫瘍薬剤制御学	講義 8 演習 6 実験研究 16 （臨床研究） 共通コース 2 特別講義 2	臨床腫瘍薬剤制御学 講義 演習 実験研究（臨床研究）
		免疫病理学	講義 8 演習 6 実験研究 16 共通コース 2 特別講義 2	免疫病理学 講義 演習 実験研究
		（現行どおりのため省略）		（現行どおりのため省略）
先端医療学	分子病態制御系	（現行どおりのため省略）		（現行どおりのため省略）
		機能病理学	講義 8 演習 6 実験研究 16 共通コース 2 特別講義 2	機能病理学 講義 演習 実験研究
		（現行どおりのため省略）		（現行どおりのため省略）

この改正は、平成19年10月22日から施行する。

財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況

（単位：千円）

助成団体名	研究課題名	研究者	交付額
（財）兵庫県健康財団	骨髄内臍帯血ミニ移植の有効性の研究	岡本　昌也 (内科学(血液内科))	400
（財）兵庫県健康財団	悪性中皮腫における腫瘍マーカーの探索に関する研究	栗林　康造 (内科学(呼吸器･RCU科))	200
（財）兵庫県健康財団	慢性腎臓病患者における心血管合併症および生命予後に影響を与える因子の検討	蓮池　由起子 (内科学(腎･透析科))	150

学 位 の 授 与

甲第492号

吉田　康彦　（H19.12.6）

（学位論文名）

Allogeneic bone marrow transplantation for hepatocellular carcinoma : hepatocyte growth factor suppresses graft－vs.－host disease

（マウス肝癌モデルに対する移植片対腫瘍(Graft－Versus－Tumor)効果を利用した骨髄移植療法とその免疫学的抗腫瘍メカニズム）

甲第493号

鈴村　和大　（H20.1.10）

（学位論文名）

Adeno－associated virus vector－mediated production of hepatocyte growth factor attenuates liver fibrosis in mice

（マウス線維肝モデルに対するAAVベクターを用いたHGF遺伝子治療の検討）

乙第300号

中尾　伸二　（H19.12.6）

（学位論文名）

Characterization of Left Ventricular Filling Abnormalities and Its Relation to Elevated Plasma Brain Natriuretic Peptide Level in Acute to Chronic Diastolic Heart Failure

（拡張不全における急性期から慢性期にかけての左室流入動態の特徴と血漿BNP値との関連性について）

乙第301号

麻野　泰包　（H19.12.6）

（学位論文名）

Hepatocyte growth factor promotes remodeling of murine liver fibrosis, accelerating recruitment of bone marrow－derived cells into the liver

（肝細胞増殖因子は肝への骨髄由来細胞の誘導を増進しマウス線維肝の再構築を促進する）

乙第302号

植木　隆介　（H20.1.10）

（学位論文名）

Emulsion of flurbiprofen axetil reduces propofol injection pain due to a decrease in free propofol concentration

（フルルビプロフェンアキセチルの脂肪懸濁液は遊離型プロポフォール濃度を低下させることによりプロポフォールの血管痛を軽減させる）

・兵庫医科大学病院TOPICS・

潰瘍性大腸炎手術　国内初の1,000症例達成

外科学　　准教授　池内 浩基

潰瘍性大腸炎（以下UC）症例は欧米に比べて本邦では少ない疾患でした。しかし、本邦での患者数は右肩上がりの増加傾向を示し、すでに8万人を超えたと推定されています。UCの治療の原則はまず内科的治療であり、薬物療法と2000年に保険適応となった血球成分除去療法が行われます。血球成分除去療法は故下山孝教授のグループが中心となり開発された治療法です。しかし、多くの症例は再燃緩解を繰り返し、最終的に手術が必要になる症例が多く存在するのも事実です。UCの外科的治療は大腸全摘術ですが、肛門を温存しつつ大腸を全摘する、大腸全摘、J型回腸嚢肛門吻合術（以下IPAA）は宇都宮譲二名誉教授が考案された世界の標準術式であり、当科ではこのIPAAの術式改良に山村武平病院長、現三重大学楠正人教授を中心として、取り組んできました。

当初は3期分割手術（3回に分けて手術する方法）が主流であり、そのため治療期間は合計10ヶ月前後必要でしたが、現在では症例によっては1期的な手術（入院期間約3週間のみ）が可能な症例も多くなってきました。術式の改良に伴い、手術時間の短縮、在院日数の短縮が可能となり図1に示したように症例数は増加し、昨年は年間の手術症例数が99例となっています。

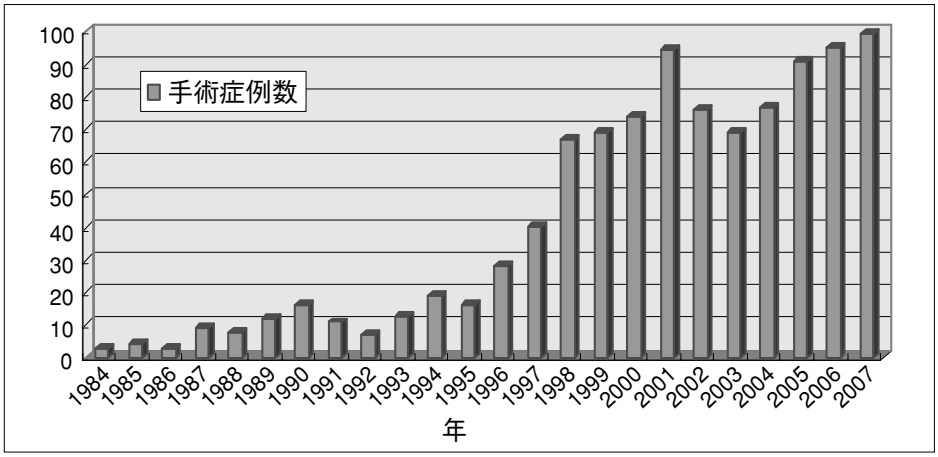


図1　潰瘍性大腸炎手術症例の年次推移

遠方からの紹介患者さんも多く、図2に示すように東日本の一部の県を除くほぼ全国からの患者さんが紹介されています。当院では現在、消化器内科も松本譽之教授を中心に、炎症性腸疾患（以下IBD）の専門医が多く在籍し、消化器外科にも我々のIBDグループがあります。内科も外科もIBDの専門医のいる病院は全国的にも非常に珍しく、IBDの駆け込み寺的な役割を果たしてきました。現在、IBDセンター化構想がありますが、内科も外科も組織横断的に専門医のいるIBDセンターとして更なる飛躍ができればと考えています。

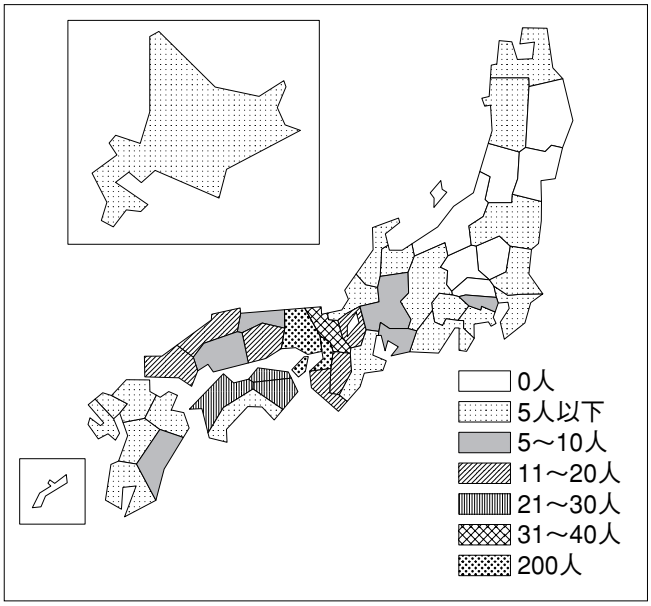


図2　兵庫医科大学病院への潰瘍性大腸炎手術紹介患者の分布

（関連新聞記事を巻末に掲載）

「地域がん診療連携拠点病院」の承認について

兵庫医科大学病院は、本年2月「地域がん診療連携拠点病院」として厚生労働省に承認されました。「地域がん診療連携拠点病院」は『第3次対がん10ヵ年総合戦略』に基づき、質の高い「がん」医療を受けることができる診療拠点として国から指定された病院です。

近年、「がん」が国民死亡の第一位を占め、がん診療の重要性、社会的要求が高まってきています。兵庫医科大学では、昨年11月、「兵庫医科大学がんセンター」を開設し、外来化学療法室の拡充も行いました。「がんセンター」では、キャンサーボード（腫瘍評議会）の組織化により、診療科の枠を越えてがんの専門家が集まり、横断的に、科学的根拠に基づく最高水準のがん治療が行える診療体制を築いています。

さらに、昨年文部科学省に採択されました「がんプロフェッショナル養成プラン」に基づき、がん治療に携わる専門的な知識・技能を有する医師および医療従事者を育成するため、卒後専門教育および大学院教育を充実させました。

兵庫医科大学は、「地域がん診療連携拠点病院」として、地域の医療機関への診療支援や連携を強化し、総合的がん診療体制を整備することにより、今後も質の高いがん医療を提供してまいります。

（管理課）

（関連新聞記事を巻末に掲載）

院内（地域）がん登録に関する講演会開催

平成19年12月12日㈬、3－1講義室において、「院内（地域）がん登録に関する講演会」が開催され、がん診療に携わる医師・看護師等130名が参加しました。

今回は学外から、津熊秀明氏（大阪府立成人病センター調査部長）と小林　誠氏（兵庫県健康財団がん登録課長）を講師としてお招きし、講演していただきました。

がん登録は、都道府県の取り組み方や全国の医療機関の対応に格差があり、わが国のがんの実態が分からないのが実情です。しかし、平成17年6月に「がん対策基本法」が成立し、国が定めた「がん対策推進基本計画」の中で、がん医療水準の均てん化を目指した「がん登録の推進」が挙げられています。

当院においても、院内がん登録室を設置し、平成19年7月より院内がん登録を開始しています。本年2月には「地域がん診療連携拠点病院」にも指定され、今後ますます精度の高い院内がん登録が求められております。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

（病歴課）

病　院　概　況

患者数

区　分	入　院（診療日数61日）						外　来（診療日数42日）		
	診療日数	新入院患者数	退院患者数	在院延患者数	病床稼働率	平均在院日数	診療日数	新外来患者数	外来延患者数
		人	人	人	%	日		人	人
19年11月	30	1,461(48.7)	1,475(49.2)	21,647(721.6)	84.7	14.7	21	3,826(182.2)	51,394(2,447.3)
12月	31	1,366(44.1)	1,627(52.5)	21,710(700.3)	82.7	14.5	21	3,672(174.9)	51,559(2,455.2)
前年度対比	—	106.4%	104.0%	93.3%	1.9	△1.5	—	77.1%	100.1%

※（　）は1日平均

・兵庫医療大学病院TOPICS・

兵庫医療大学薬学部　特任教授ご挨拶

新たな薬学教育のスタートに

薬学部 特任教授　馬場　明道

兵庫医療大学がスタートして、ほぼ、一年を迎えようとしています。私は、昨年十二月より同大学薬学部の特任教授（非常勤）に任命され、その教育研究に参画する機会を得ました。ご承知のように、薬学教育制度改正を受け、薬学部・薬系大学は、各々の特色を背景に、多彩な教育研究を提供しようとしています。医療人としての薬剤師育成、創薬科学の推進を支える人材育成が、これからも薬学教育の重要なミッションであることは間違いありません。一方、これからの社会では、「健康の維持」、「安全・安心」をキーワードに、産業創出もふくめた色々な構造変化が起こることも予測されます。総合健康科学である薬学は、まさにこれらの社会的変化に対応し得る人材育成を図れる領域です。

薬、看護、リハビリテーションの三学部を有する兵庫医療大学は、学校法人兵庫医科大学の一員として、医療を担うコメディカル人材育成を図ることはもとより、健康を志向するこれからの社会に柔軟に対応しうる人材を育成することで社会的貢献が果たせるものと思います。その目的の達成のために微力ながら貢献するつもりです。

●プロフィール

専門は薬理学、（社）日本薬理学会前理事長、日本薬学会賞受賞（平成19年度）
大阪大学大学院薬学研究科教授（現在）、薬学部長、大阪大学理事・副学長など
を歴任

地域連携実践センター
第2回・第3回公開講座・健康相談

兵庫医療大学　地域連携実践センター主催の第2回公開講座・健康相談を12月11日㈫午後2時から開催しました。看護学部が中心となって開催し、看護学部の鈴木久美教授が「自分のからだについて学ぼう－乳がん自己検診法について－」のテーマで講演し、講演後、乳がん自己検診法について映像（DVD）を見ながら実技を行いました。参加者からは、実技を兼ねた講習は大いに参考になったと感想を頂きました。

また、第3回公開講座を1月26日㈯午後2時から開催しました。「発達の気がかりな子どもの心の世界」と題してリハビリテーション学部の伊藤斉子准教授と大阪LD親の会おたふく会の笠井恵美副代表による講演を行いました。参加者からは、相談する施設が少ない為、大変充実した内容で参考になったと感想を頂きました。お子様連れの方には託児所を設け安心して講演や健康相談に臨んで頂けました。

第2回　公開講座　鈴木教授

第3回　公開講座　伊藤准教授

【今後の開催予定】

第4回　3月15日（土）「メタボリック症候群」
第5回　5月10日（土）「在宅における栄養剤の使い方　その1」

（管理・運営グループ）

・法人TOPICS・

規程等の制定・改正

	項　　目	制定・改正の趣旨	制定･改正日
1	医療機器の安全管理にかかる内規	医療機器を安全に使用する上で不可欠である保守点検及び安全使用に関する研修を適正に行うため制定	平成19年 11月１日
2	栄養委員会規程	構成員変更に伴う改正	平成19年 11月28日
3	患者サービス向上委員会規程	外来部門の意見を反映させるため構成員変更、および組織名称変更に伴う改正	平成19年 12月20日
4	講座外科目（学科目）設置規程	臨床系学科目の主たる業務に診療業務を加えることに伴う改正	平成20年 １月１日
5	がんプロフェッショナル養成プランに携わる特別聴講学生取扱内規	「がんプロフェッショナル養成プラン」の採択に伴い大学院の中に研修生コースを設置しその取扱内規を制定	平成20年 １月１日
6	日本学生支援機構奨学金返還免除候補者選考規程	日本学生支援機構に対し推薦する奨学金の返還免除候補者の選考を行うため制定	平成20年 １月15日
7	日本学生支援機構奨学金返還免除候補者選考基準	日本学生支援機構に対し推薦する奨学金の返還免除候補者の選考のための評価基準を制定	平成20年 １月15日
8	入学試験及び課程を経ない者の学位申請に係る外国語試験に対する手当支給に関する内規	兵庫医療大学の入学試験を対象に加えた上、手当支給の対象業務を見直し実態に即した内容に改正	平成20年 ２月１日
9	入試運営委員会規程	入試運営委員会と教授会との関係をより明確にするため改正	平成20年 ２月１日

人　事　異　動

〔西宮キャンパス〕

兵庫医科大学・兵庫医科大学病院

※併任、兼任等の解除は下記に載せておりません。

〔昇　　任〕

発令日	氏　　名	昇任後の職名〔所属〕
19.11.16	栗林　　康造	講師〔内科学　呼吸器・RCU科〕

〔配置換え・兼任等〕

発令日	氏　　名	異動後の職名〔所属〕
19.11.16	藤盛　　好啓	准教授〔がんセンター〕 准教授(先端医学研究所細胞移植部門)兼任
19.12. 1	前　　寛	助教〔小児科学〕 小児科医局長兼任
〃	澤木　　潤子	助教〔小児科学〕 小児科病棟医長兼任
〃	神原　　政仁	助教〔麻酔科学〕 ペインクリニック部兼務
〃	山田　　洋一	学務部次長(学務･図書館･知的財産統括室担当) 学務課長兼任
〃	幸田　　章義	学務部次長(入試･教務学生担当)
〃	河村　　康彦	学務部知的財産統括室課長
〃	北出　　篤	病院事務部課長補佐(PETセンター事務長)
19.12.16	高橋　　敬子	臨床講師〔内科学　冠疾患科〕 救命救急センター兼務

発令日	氏　　名	異動後の職名〔所属〕
20. 1. 1	小林　　薫	助教〔放射線医学〕 放射線科外来医長兼任
〃	甲斐　　義啓	病院事務部次長(管理･地域医療担当) 経営企画室次長兼任 病院事務部地域医療課長兼任
〃	由良　　仁	病院事務部次長(医事･病歴･治験担当) 病院事務部治験事務課長兼任
〃	佐藤　　浩治	病院事務部医療安全課長
〃	山根　　智子	学務部教務学生課主任
〃	糟谷健太郎	神戸キャンパスオフィス教育･学生支援グループ事務員(主任級)
〃	堀江美奈子	事務員〔病院事務部治験事務課〕
〃	溝口　　昌子	事務員〔中央放射線部〕
〃	中尾　　晴代	事務員〔病院事務部管理課(卒後臨床研修センター担当)〕
〃	植村多佳子	事務員(嘱)〔病院事務部医療安全課〕

〔委嘱（学内講師）〕

発令日	氏名	現職名〔所属／委嘱職名〕
20. 1. 1	髙橋　　裕二	助教〔環境予防医学〕/学内講師

〔採　　用〕

採用日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.11.16	田中　明美	看護師(嘱)〔看護部(眼科外来)〕
19.12.1	西　宏之	助教〔心臓血管外科学〕
〃	俵　健二	助教〔公衆衛生学〕
〃	山本　紗織	事務員(嘱)〔病院事務部病歴課〕
19.12.16	尾都野一刀	病院助手〔脳神経外科〕
〃	東家　恵	看護師〔看護部(ICU)〕
〃	大橋　智子	看護補助(準)〔看護部(7階西病棟)〕
〃	堺谷　智子	看護師(嘱)〔看護部(内科外来)〕
20.1.1	菅野　武史	助教〔生理学　生体情報部門〕

採用日	氏　　名	職　　名〔所属〕
20.1.1	土居　隆	病院助手〔内科　冠疾患科〕
〃	和田　龍	病院助手〔産科婦人科〕
〃	岡　秀樹	病院助手〔耳鼻咽喉科〕
〃	太田　章子	看護師〔看護部(NICU)〕
〃	谷田　啓子	看護補助(準)〔看護部(7階東病棟)〕
〃	篠川　和美	看護師（嘱)〔輸血部〕
〃	西野　京子	看護師(嘱)〔看護部(形成外科外来)〕
〃	溝渕　智子	実験補助（嘱)〔病原微生物学〕
〃	田村　聡子	事務員（嘱)〔財務部資材課〕

〔退　　職〕

退職日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.11.30	若林　可奈	レジデント〔内科　循環器内科〕
19.12.1	松平　宗典	助教〔救命救急センター〕
〃	山本　郁代	レジデント〔歯科口腔外科〕
19.12.15	崔　永得	病院助手〔脳神経外科〕
〃	入江　俊彦	副主任薬剤師〔薬剤部〕
〃	平井　陽子	社会福祉士〔地域医療･総合相談センター〕
〃	石原久美子	事務員〔病院事務部病歴課〕
〃	俵原　光子	看護補助(準)〔看護部(7階西病棟)〕
19.12.31	藤川　浩一	講師〔生理学　生体情報部門〕
〃	嶋田　裕	講師〔外科学〕
〃	根来　篤	助教〔耳鼻咽喉科学〕

退職日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.12.31	三井　要造	助教〔泌尿器科学〕
〃	伊藤　宏一	病院助手〔産科婦人科〕
〃	梶川　勝示	病院事務部次長(管理担当)〔病院事務部〕
〃	永井はづき	看護師〔看護部(10階東病棟)〕
〃	田端　裕一	看護師〔看護部(6－1病棟)〕
〃	高橋　文美	看護師〔看護部(ICU)〕
〃	日下有香梨	看護師〔看護部(NICU)〕
〃	寺岸　真弓	看護師〔看護部(内科外来)〕
〃	青山　和枝	実験補助〔病原微生物学〕
〃	高木　新枝	看護補助(嘱)〔看護部(7階東病棟)〕

〔篠山キャンパス〕

篠山病院

※併任、兼任等の解除は下記に載せておりません。

〔退　　職〕

退職日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.12.15	森田　和夫	看護師〔医療技術部(看護部門)看護課第5病棟〕
19.12.25	中村　麻衣	看護師〔医療技術部(看護部門)看護課第1病棟〕

退職日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.12.31	西川由里子	理学療法士〔医療技術部(医療技術部門)リハビリテーション室〕
〃	上畑　友代	看護師〔医療技術部(看護部門)看護課第5病棟〕

〔神戸キャンパス〕

兵庫医療大学

※併任、兼任等の解除は下記に載せておりません。

〔配置換え・兼任等〕

発令日	氏　　名	異動後の職名〔所属〕
20.1.1	小堀　玲子	入試･就職グループ事務員(主任級)

〔採　　用〕

採用日	氏　　名	職　　名〔所属〕
19.12.1	馬場　明道	特任教授〔薬学部〕
20.1.1	岡　みゆき	助教〔看護学部〕
〃	市村　登和	図書館･情報グループ事務員(主任級)

訃報

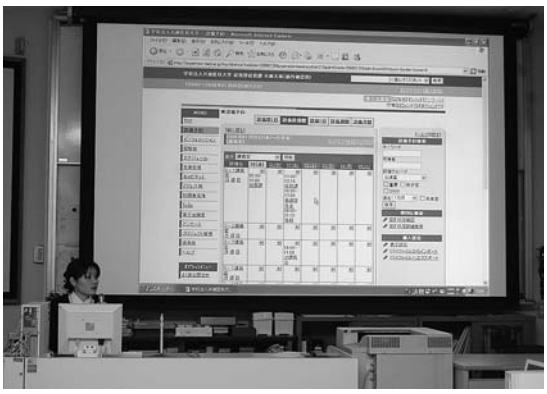
曽我祥子教授（平成19年12月29日付、教授に昇任)(心理学）は、かねて病気療養中のところ、平成19年12月29日ご逝去されました。享年62歳。

曽我教授は、昭和48年4月に着任され、平成12年6月からは准教授（旧助教授）として活躍され、本学の発展に多大な貢献をされました。心からご冥福をお祈りいたします。

グループウェア全面導入について

西宮キャンパスでは、情報流通のスピードアップと情報の共有化の推進を目的として昨年１月に事務局に導入し、今年１月には大学・病院の各部署にまで利用範囲を拡大しました。この全面導入により、各部署ではグループウェア上で会議室の空き状況確認・予約、学内インフォメーション（回覧等）の受発信等の各種機能が利用可能となるなど業務の効率化をはじめ様々な効果が期待できます。教職員の皆様は積極的にご利用ください。

（総務課）



グループウェア導入説明会

実際にグループウェアで練習する様子

・主要会議とその議題・

理 事 会

（１月28日）

○人事について
○兵庫医科大学新入試制度について
○中期収支計画の見直しについて
○篠山病院の存続について

常 務 会

（12月４日）

○院外処方について
○学校法人兵庫医科大学事務局　モラール・サーベイ実施について
○超音波診断装置について（３件）
○外科の再編について
○施設設備工事の執行について
○科学研究費補助金の応募資格について

（12月18日）

○人事について
○外科の再編について
○兵庫医科大学大学院学則の一部改正について
○講座外科目（学科目）設置規程の一部見直しについて
○がんプロフェッショナル養成プランに携わる特別聴講学生取扱内規の制定について
○脳波計について
○超音波手術器について
○マイクロタイピングシステムについて
○連続迅速自動固定包埋装置について
○NICUモニタリングシステムについて
○施設設備工事の執行について
○推薦入試（薬学部・併願）判定結果ならびに兵庫医療大学奨学金（給付）の選考について
○兵庫医療大学一般入試直前広報活動について
○篠山病院の存続について
○６大学連携オンコロジーチーム養成プラン実施に当たり連携病院の指導者に対しての称号授与について

（１月15日）

○人事について
○兵庫医科大学学則の一部改正について
○兵庫医科大学大学院学則の一部改正について
○教務に関する規程の一部改正について
○特命教授設置規程の一部改正について
○入試運営委員会規程の一部改正について
○日本学生支援機構奨学金返還免除候補者選考規程の制定について
○日本学生支援機構奨学金返還免除候補者選考基準の制定について
○兵庫医科大学新入試制度について
○平成20年度予算編成方針について
○皮膚科の定員について
○「入学試験及び課程を経ない者の学位申請に係る外国

語試験に対する手当支給に関する内規」の一部改正について
○「看護師確保対策委員会」の設置について
○中期収支計画の見直しについて
○外国出張旅費等の取扱いについて
○平成20年度病院助手配置について
○採血室受付業務システムについて
○兵庫医療大学設置経費に係わる高額機器9件について
○篠山病院の存続について
（1月22日）
○篠山病院の存続について

兵庫医科大学 教授会

(12月 6 日)
○教員の人事について
○教員選考委員会の設置について
○平成19年度卒業認定保留者合宿及び第6学年次留年者合宿について
○平成20年度カリキュラムについて
○講座外科目(学科目)設置規程の一部改正について(案)
○新入試制度について
○外国人特別短期研究員の受入れ期間の変更について
○平成19年度研究生の入学について（追加）
○科学研究費補助金（奨励研究）への応募資格について
○学外出講について
○外国出張について
○兵庫医科大学篠山病院の存続について
（1月10日）
○心理学　故曽我祥子准教授の教授昇任について
○教員の人事について
○教員選考委員会の設置について
○臨床教授候補者選考委員会の設置について
○平成19年度卒業者の追加認定について
○平成19年度第6学年次留年者カリキュラムについて
○関西学院大学連携講座について
○平成19年度第1～第3学年次学年末再試験日程表(案)について
○平成20年度カリキュラムについて
○平成20年度臨床実習について
○平成19年度第4学年次成績不良者合宿について
○兵庫医科大学学則の一部改正について（案）
○教務に関する規程の一部改正について（案）
○図書館長候補者の選出について
○新入試制度について
○共同研究規程(案)、受託研究規程(案)の改正について
○学外出講について
○第1学年次心理学の成績取扱いについて
○入試運営委員会規程の一部改正について（案）
（1月21日）
○兵庫医科大学篠山病院問題方針案について

兵庫医療大学 大学協議会

(12月 3 日)
○推薦入学試験（併願）実施状況について
○推薦入試（専願）入学手続者に対する入学前教育プログラムについて
○大学連携協議会議題について
○平成20年度事業計画（案）について
○「神戸ポートアイランド4大学連携協定」の締結について
○平成19年度冬期賞与について
○平成20年度着任教員並びに助教・助手の研究室整備について
○学外実習における学生用ワッペンの作成について
○入試手当について
(12月17日)
○大学連携協議会議題確認について
○薬学部推薦入試（併願）判定結果と奨学生の選考について
○一般入学試験前期・試験会場について
○看護学部編入学試験募集要項（案）について
○チュートリアル教育に関する今後の取り組みについて（FD研修が終わって）
○全教員討論会「チーム医療について」の今後の施策について
○学生支援制度（案）について
○保護者の会の計画について
○動物実験規程（案）について
○バイオセーフティ委員会予備ワーキング委員について
○研究室整備計画について
○英語（英会話）の非常勤講師について
○生命・医療倫理学の非常勤講師について
○第2学年次の全体オリエンテーション日程について
（1月 7 日）
○平成20年度事業計画について
○兵庫医療大学聴講生、受託生および研究生の取扱いに関する規程（案）について
○リハビリテーション学部「整形外科学Ⅰ・Ⅱ」の担当教員について
○動物実験関係諸規程について
○西宮キャンパスでのロッカー室、カンファレンス室等の確保について
○読売新聞社主催「3大疾病展」への協賛について
○アドバイザー担当教員による学生の成績閲覧について

・お・知・ら・せ・

兵庫医療大学のための募金 状況報告

「兵庫医療大学」のための募金活動を平成18年5月に開始して以来、これまでに教職員をはじめ、後援会（保護者）、緑樹会（卒業生）、名誉教授、退職者等（607名）は言うに及ばず協力医療機関や関連病院等を始めとする幅広い方々から、温かいお申し込みを賜り、誠に有り難く、厚くお礼申し上げます。

本学法人といたしましては、ご協力賜りました方々のご芳名を大学広報に掲載させていただき、感謝の意を表したいと存じ、下記のとおり報告させていただきます。

皆様からご寄付いただきました寄付金をこの兵庫医療大学の教育研究用施設整備等の充実に利用させていただくとともに、これからも全力で大学の合理化推進等により、必要資金確保に向けて自主的努力を重ねてまいりますが、加えて、ぜひとも関係各方面からのさらなるご支援を仰ぎお力添えをいただきたく、引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（募金推進室）

記

18.5.2〜19.12.31

区　分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合　　計	
	件数	金　　額	件数	金　　額	件数	金　　額
申　込	271件	536,624,000円	607件	125,570,000円	878件	662,194,000円
入　金	260件	430,024,000円	595件	124,545,000円	855件	554,569,000円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧

19.11.1〜19.12.31

[企業等法人]（5法人）

5,000,000円　株式會社　紀伊國屋書店様

（ご芳名のみ記載）

アルフレッサ　ピップトウキョウ　株式会社様

テクノメディカル　株式会社様

兵田印刷工芸　株式会社様

エイエムオー・ジャパン　株式会社様

[関連病院等]（1法人）

（ご芳名のみ記載）

財団法人仁明会　仁明会病院赤い羽療園様

[後援会]（1名）

300,000円　池添　逸夫様

[教職員]（1名）

30,000円　増田　富美子様

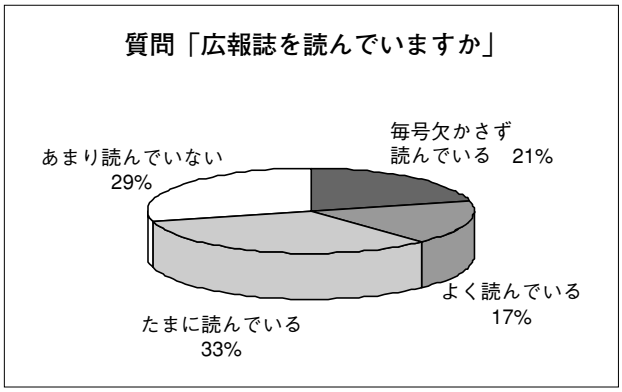
4月から広報誌をリニューアルします!!

昨年11月に西宮キャンパス内で実施しました広報誌に関する読者アンケートには、約450名の方から回答をいただきました。誌面を借りまして御礼申し上げます。

アンケートでは、85%以上の方が冊子の大きさ、ページ数等の体裁について「適切である」と回答されました。また、「広報誌を読んでいますか」の問いについては、「よく読んでいる、毎号欠かさず読んでいる」と回答された方の合計が全体の38%に留まりました。経費削減、情報発信のスピードアップなどの提言なども数多くいただき、広報誌のあり方を検討していかなければいけないことを強く認識いたしました。

これらアンケート結果やご意見を踏まえまして、4月から『教職員・学生のコミュニケーションの活性化を図る情報発信誌』として全面リニューアルします。特集記事や取材を交え、読者参画型の誌面作りに取り組みたいと思います。

（広報課）



兵庫医大

難病の潰瘍性大腸炎手術 国内初の1000例

兵庫医科大病院（西宮市）はこのほど、厚生労働省指定の難病「潰瘍性大腸炎」の外科的治療（手術）数が、国内の医療機関では初となる通算一千例に達したと発表した。同病院は「さらに経験と改善を重ね、患者の負担を軽減し、QOL（生活の質）向上に取り組みたい」と話す。

潰瘍性大腸炎は、大腸内側の粘膜がただれるなどする原因不明の炎症性疾患で、二十代を中心に高齢者まで幅広く発症する。ひどくなると下痢や腹痛を繰り返し、大腸がんを引き起こす危険性も高い。国内患者数は約七万七千人（二〇〇二年度）で、毎年約五千人ずつ増えているという。

主な治療法は薬物治療や食事療法だが、大量出血など重症の場合は手術で大腸を摘出する。同病院では一九八四年から外科手術を開始。当初は大腸とともに肛門も取り除いていたが、小腸で便をためる袋を作り、肛門を温存する方法に切り替えた。近年は国内屈指の年間約百件ペースで、十二月十九日に千例目を実施した。

同病院は「今後、開腹部分の傷をできるだけ小さくするなど技術改善も図りたい」としている。

（今泉欣也）

〈平成20年1月11日㈮神戸新聞（朝刊）〉

兵庫医大・市立西脇・県立柏原

「がん拠点病院」指定

県内10地域 網羅果たす

全国どこでも質の高いがん診療が受けられるよう厚生労働省が指定する「がん診療連携拠点病院」に、県内で新たに三病院が指定されることがこのほど、同省の検討会で決まった。前回、指定から漏れた北播磨と丹波の両地域でも決まり、県内を十地域に分けた「二次医療圏域」のすべてに拠点病院が整備されることになった。

厚労省は、各都道府県に一カ所の「都道府県型がん診療連携拠点病院」と、約三百七十ある二次医療圏ごとに一カ所程度の「地域型がん診療連携拠点病院」の整備を目指している。

県内の新指定はいずれも地域型で、兵庫医科大病院（西宮市）▽市立西脇病院（西脇市）▽県立柏原病院（丹波市）―の三病院。

県内ではすでに、都道府県型に指定された県立がんセンター（明石市）をはじめ、十病院が指定を受けている。二次医療圏十地域のうち八地域をカバーしていたが、今回の指定で、空白となっていた北播磨・丹波地域が埋まり、県内全域で拠点病院が整備されることになった。

（畑野士朗）

〈平成20年1月25日㈮神戸新聞（朝刊）〉

救急救命医師を目指す医大生、松岡信子さん（28）

あの日があるから

震災13年の記憶

◆◇ ⑥ ◇◆

人間は無力ではない

「もう何もできない自分でいたくない」。松岡信子さんは震災の経験を機に、救急救命医師を目指している＝兵庫県西宮市の兵庫医科大

平成7年1月の阪神大震災は6434人の尊い命を奪った。ある人は倒壊した家屋の下敷きとなり、ある人は火災にのみ込まれて…。それだけではない。震度7の強い揺れは、死者の間近にいた人に、人間がいかに無力なのかを思い知らせた。現在、兵庫医科大＝兵庫県西宮市＝で医師への道を歩んでいる同大4年、松岡信子さん(28)は、その思いを13年間抱き続けてきた。

神戸市灘区赤松町の自宅マンションで被災した。神戸大学近くの高台にある4階建てマンションの4階。家族に被害はなかった。ベランダに出て外を見ると、高台から見る神戸の街のあちこちから火の手が上がっていた。松岡さんの目には、空がまっ赤に燃えているように映った。誰かの悲鳴のような声も聞こえた。

しばらくして外出したとき、2階部分が1階を押しつぶした家屋を見た。家屋を囲むロープに1枚の張り紙。殴り書きのような文字で、こう書かれていた。

「下に人が埋まっています」

何とかしたいと思った。15歳の女性1人では、がれきを取り除くこともできない。「何をしたらいいのか」。歯がゆさだけが残った。自分が何もできない人間だと初めて思い知った。

□ □ □

時間がたつに従って、被害の甚大さが明らかになった。通っていた中学校の校舎が倒壊、教諭の1人が犠牲になった。水道や電気などライフラインが寸断され、自身も直後から一時、京都市の祖母宅に避難した。

中学を卒業後は地元・神戸の高校に進んだが、あの光景は頭から離れなかった。自分は何をしたいのか。松岡さんは、その答えを医学に見いだした。

「震災の日、張り紙があった家屋近くに医師がいたら助かった人がいたはず。医師なら人を助けることができる」

医学部を目指したものの、3浪の末、13年に日本大学歯学部に入学。学力の壁もあったが、「歯医者でも人の健康に携わることはできる」と考えたからだが、その考えが変わる出来事があった。

2年生の時、通学中に目の前で交通事故を目撃した。乗用車にはねられ、苦しむ男性。「助けたい」。しかし何もできない。ただ救急車が来るのを待つだけだった。

震災のあの時と同じ、何もできない自分がいた。自分のやりたいことに、歯医者では限界があった。再び医学部を目指すことを決めた。

□ □ □

16年に兵庫医科大に合格。入学後は勉学だけでなく、「人の役にたちたい」とボランティアサークルに入り、小児病棟の子供の遊び相手になるなどしている。

入学後に思いを強くした出来事もあった。17年4月に同県尼崎市で発生し、107人が亡くなったJR福知山線脱線事故だ。同大病院は災害拠点病院に指定されており、多くの被害者が次々と運び込まれた。当時はまだ治療に携わることはできなかったが、人の命を助けたいと心から思った。救急医療を目指すことは間違いではなかったと感じた。

松岡さんは言う。

「もう何もできない自分は嫌なんです。人は無力ではない。震災は、そのことをわたしに教えてくれた」

がれきと化した街には張り紙が目立った。その中には被災者自身の安否情報があり、悲痛なメッセージがあった＝平成7年1月24日、神戸市長田区

〈平成20年1月17日㈭産経新聞（朝刊）〉

兵庫医科大学広報　第192号

編集発行：学校法人　兵庫医科大学
広報室　広報課
〒663-8501
西宮市武庫川町1番1号
TEL：0798-45-6655
FAX：0798-48-6261
http://www.hyo-med.ac.jp/